サービス管理責任者・
児童発達支援管理責任者更新研修

【演　習】

令和元年度サービス管理責任者等指導者養成研修
都道府県実施向け資料を一部修正加筆

サビ児管更新研修の演習スケジュール

- 9:50～10:00　演習ガイダンス
- 10:00～10:20　自己紹介・演習の役割決め
- 10:20～10:30　休憩
- 10:30～11:30　演習1「事業所としての自己検証」
- 11:30～11:40　演習1全体討議（発表）と振り返り
- 11:40～12:40　昼食休憩
- 12:40～14:20　演習2「サビ児管としての自己検証」
- 14:20～14:30　演習2全体討議（発表）と振り返り
- 14:30～14:40　休憩
- 14:40～15:40　演習3「関係機関との連携等についての自己検証」
- 15:40～15:50　演習3全体討議（発表）と振り返り
- 15:50～16:00　休憩
- 16:00～17:00　講義1「人材育成とスーパービジョンについて」
- 17:00～17:20　演習「研修全体振り返り」
- 17:20～17:30　全体討議（発表）と研修まとめ

更新研修の目的・獲得目標

目的
①行政の動向や制度改正等の最新の情報（アップデート）を得る
②サービス管理責任者・児童発達管理責任者としての日々の業務、利用者とのかかわり、サービス提供職員等への人材育成のあり方について振り返るとともに、知識・技術の更なる向上を図る
③サービス提供職員等へのスーパービジョンについて学び、現場での活用について考える

	研修項目	獲得目標
①	障害者福祉施策及び児童福祉施策の動向	最新の動向を学習することにより利用者の制度的な環境の変化を理解する。
②	サービス提供事業所としての自己検証	各自事業所の取組状況や地域との連携の実践状況を出し合うことにより、今後の事業所としての取組を明確して実践に活かす。
	サビ児管としての自己検証	サービス提供責任者としての自らの業務を振り返り、支援のあり方や地域とのかかわり、サービス提供職員等に対する人材育成について、今後自ら取組むべき課題を明確にして実践に活かす。
	関係機関との連携	地域の相談支援専門員や関係機関、さらに（自立支援）協議会との連携状況を再確認して実践に活かす。自立支援協議会の役割を理解し、協議会への参画の意義について考える。
③	人材育成とスーパービジョンについて	人材育成の方法の1つとして、現場でのスーパービジョンの活用の重要性について知る。 現場におけるスーパービジョンの活用について考える。

演習の進め方①【各セッション共通】

1．演習の進行は受講者が行ってください。
担当ファシリを配置していますので、わからないことがありましたら気軽に声をかけてください。また、必要があればこちらからお声をかけさせていただくこともあります。

2．演習１～３は以下の通り、進めていきます。
①事前課題の発表準備
②事前課題の発表・質疑、メモ作成
③共有・整理
④発表

演習の進め方②【各セッション共通】

3. 報告及び質疑の時間は厳守してください。（画面に演習終了を知らせるメッセージが表示されます）

4. できるだけ多くの受講生が発言できるようにしてください。

5. 職場環境や経験年数、職種の違いなど、研修を受講される方の層が幅広く、演習がスムーズに行えるよう、グランドルールの例を参考にしてください

グランドルール
研修（グループワーク）参加者の留意点

- 周りの人に関心を持って、積極的に参加しましょう
- 他の方の発言に敬意をはらいましょう
- 自分と意見が違ったとしても相手の良いところに注目しましょう
- 他の方に自分の意見を押し付けないようにしましょう
- 他の方の発言に共感を示し、耳を傾け理解しようとすることを伝えましょう
- 一人一人の発言を大切にし、一人で話し続けることのないようにしましょう
- 発言の意味が良く分からない時は、そのままにせず分かりやすく説明をしてもらいましょう
- 専門用語や地域性、自分の経験のみでの発言は十分に配慮しましょう
- 自分の意見にこだわり、議論が同じ所で繰り返されないように配慮しましょう
- ユーモアを忘れずに

自己紹介・演習の役割決め

10:00～10:20 （20分）

○自己紹介 1人2分

事業所の事業種別や内容、現在の業務内容、
サビ管（児発管）としての従事の有無など

○役割分担（進行、発表役）

	演習1	演習2	演習3	まとめ
進行	各グループ 名簿1番の方			
発表				

演習1の手順
10:30～11:30 事業所としての自己検証

①事前課題1の1-1、1-2を報告【1名2分×6名＝12分】
- 1人ずつ順番に報告
- 聞いている人は、「良いと思う取組み」をメモにとる。

②事前課題1の1-1、1-2について、「良いと思う取組み」の共有と意見交換
- 報告を聞き、メモをとった「良いと思う取組み」を1人ずつ報告
- 発表者はメモをとる（発表用）

③事前課題1の2-1、2-2を報告【1名2分×6名＝12分】
- 1人ずつ順番に報告
- 聞いている人は、「良いと思う取組み」をメモにとる。

④事前課題1の1-1、1-2について、「良いと思う取組み」の共有と意見交換
- 報告を聞き、メモをとった「良いと思う取組み」を1人ずつ報告
- 発表者はメモをとる（発表用）

演習1の留意点
10:30～11:30　事業所としての自己検証

□「良い取り組み」として見る視点について

- 組織の工夫として、
  ①情報伝達や共有方法
  （日常の業務的コミュニケーション、会議等）
  ②サビ児管のフォローアップ体制
  （サビ児管が困ったときの相談できる体制）
  ③チームアプローチ
  （管理者や看護師、支援員など事業所内の連携の工夫）
  など
- 自身の事業所でも参考にして取り組んでみたいと思ったこと

演習1：報告の共有メモ

演習1：発表・振り返り（11:30～11:40）

演習1　事業所としての自己検証

1）　**情報伝達や共有**（日常のコミュニケーション、会議等）

・朝礼や夕礼、各種職員ミーティング等の活用

・申し送りノートやシステムの活用

→利用者個々の状況や体調、職員間の役割分担など、その日押さえておかなければならないことの伝達や把握の重要性（事故などの防止にもつながる）

2）　**サビ児管のフォローアップ体制**（困ったときの相談できる体制）

・相談する人、相談の必要があることを組織の中で明確にする

・抱え込み、燃え尽きにならない→身近に相談できる人を見つける

3）　**チームアプローチ/ワーク**（看護師、支援員など事業所内の連携の工夫）

・普段からの活発なコミュニケーションを大切にする雰囲気づくり

・多職種の業務の相互理解

・何かあったらかけつける、任せきりにしない、困難からみんなで考え・学ぶ

・職員の人材育成、フォローアップ、メンタルヘルスの課題（働きやすさ、職員1人が欠けてもフォローし合える日頃からの体制作り）

演習2の手順
12:40～14:20　サビ児管としての自己検証

事前課題2

以下の分け方で①から順番に共有と意見交換を行って下さい。

① 3.会議について、4.他の従業者に対する技術指導及び助言について
② 6.権利擁護・虐待防止について
③ 5.苦情解決について
④ 1.個別支援計画の作成について、2.記録について
⑤ 7.機密の保持について

演習2の手順
12:40～14:20　サビ児管としての自己検証

事前課題2

- 現状と課題について共有する
- 「どのようにすれば10点に近づけるか」について、参加者の事業所で実際行われている取組等を共有しながら、改善策やアイディアを考える
- 時間があれば、他の事業所の方に「こんなことを聞いてみたい」ということがあれば、意見交換を行う
- 共有、意見交換の内容について、発表者はメモをとり、発表内容の整理を行う

演習2：発表・振り返り（14:20～14:30）

① 3.会議について、4.他の従業者に対する技術指導及び助言について

②6.権利擁護・虐待防止について

演習2：発表・振り返り（14:20～14:30）

③ 5.苦情解決について

④1.個別支援計画の作成について、2.記録について

演習2：発表・振り返り（14:20～14:30）

⑤ 7.機密の保持について

⑥「他の事業所の方に聞いてみたいこと」について

演習2　サビ児管としての自己検証

□ 人材育成について～よりよいサービスの提供、質の向上に向けて～

・相談しやすい雰囲気づくり（困っていることを一緒に考える、職員の気持ちをくみとる姿勢）
・情報共有、伝達の工夫（ノート、システム、リーダーを決めるなど）
・日々のかかわりの振り返り、職員間の共有や協議の場（会議の開催など）
→職員全員参加、時間内での実施が難しい中での工夫（記録の回覧、予め議題を決めて、効率的に実施するなど）
・職員の学び、振り返りの機会づくり（OJT、研修会、勉強会の開催など）
・利用者の声を集める（意見箱などの活用）
・職員に長く働き続けてもらう働きやすい職場づくり（職員との信頼関係の構築、個々に応じた配慮や指導、面談や評価制度の実施など）

□ 虐待防止、苦情解決について

・自事業所ができることから始める（チェックシートなどの活用、外部講師を依頼する等）
・事例から振り返ることの大切さ

□ 個別支援計画の作成、管理について

・本人の思いを反映させるための工夫　　・スケジュール管理の工夫

演習3の手順
14:40～15:40　関係機関との連携についての自己検証

事前課題3

□「1.関係機関との連携」、「2.相談支援専門員との連携」、「3.担当者会議の開催」について

- 現状と課題について共有する
- 「どのようにすれば10点に近づけるか」について、参加者の事業所で実際行われている取組等を共有しながら、改善策やアイディアを考える
- 共有、意見交換の内容について、発表者はメモをとり、発表内容の整理を行う

□「4.自立支援協議会への参加」について

- 協議会への参画の状況、参加してよかったこと等を共有する
- 協議会の役割や参画することの意義について考える

演習3：発表・振り返り（15:40～15:50）

□「1.関係機関との連携」、「2.相談支援専門員との連携」、「3.担当者会議の開催」について

演習3：発表・振り返り（15:40～15:50）

□「4.自立支援協議会への参加」について

演習3　関係機関との連携についての自己検証

□「連携」について

- チームでのかかわり

  自事業所だけでは支えられないこともある

  高齢化や家族の問題など複雑、多様化する利用者のニーズや状況への対応

  （ご本人を中心に考えた連携のあり方、役割は重なってもいい）

- 第三者の評価

  外部からの目を入れる、客観的に事業所を見てもらう機会の大切さ

□「自立支援協議会への参加」について

- 地域づくり

  『こういう場があったらいい、こんなことできればいい』を考え、実現する

- 人材育成、事業所同志のつながりづくり

  協議会に参加して知ることはたくさんある　まずは地域を知ること

演習
17:00～17:20　研修全体の振り返りと今後について

グループ内で共有、意見交換、発表

①研修全体を通して、感じたこと、気づき、学んだこと

②今後の取り組みに活かしたいと思うこと

③その他

まとめ
サービス管理責任者（児童発達管理責任者）の役割について

1　支援プロセスの管理に関すること
（1）個別支援計画の作成に関する業務
①利用者に対する面接等によるアセスメント及び支援内容の検討
②個別支援計画の原案作成
③個別支援計画作成に係る会議の運営
④利用者・家族に対する個別支援計画案の説明と同意
⑤利用者に対する個別支援計画の交付
⑥個別支援計画の実施状況の把握（モニタリング）による見直しと計画の変更
・定期的な利用者への面接
・定期的なモニタリング結果の記録
（2）当該サービス提供事業所以外における利用状況の把握
（3）利用者に対する必要な支援の提供

2　サービス提供者（職員・従業者）への指導・助言に関すること

3　関係者や関係機関の連携に関すること

4　その他（利用者満足度や第三者評価委等）に関すること

平成29年度　サービス管理責任者等指導者養成研修会資料より引用

皆様のこころの健康を・・・

いろんなストレス、コロナウイルスのことなどいろいろありますよね。

私たちはスーパーマンじゃないです。

わからないこと、これでいいのかと迷ってあたりまえ。

今日の時間が皆様にとって有意義であれば、幸いです。

いろんな人に助けてもらい、支えてもらい、乗り越えていきましょう。